◆ 写真アルバム Photo file

久しぶりに名前に「鉄」のつく山を歩きました

兵庫100名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口walk　2017.8.19.

兵庫北播磨中国山地の古代たたらの郷　千種・作用から南に流れ下り、瀬戸内海に注ぐ千種川。
その河口に開けた赤穂は砂鉄採取の土砂など千種川の土砂が堆積してできた街として知られる。
その河口に今も砂鉄浜があるかもしれないと思い、地図を広げていて、赤穂の街の西北部に「黒鉄山」の名を見つけました。また、この山のすぐ南の地域の名は大津そして船渡の地名もあり、かつてはこの辺りは赤穂の海岸線が入り込んでいたと推定され、その東南には赤穂の街・港を作った千種川の河口である。
また、黒鉄山山腹には鉱山(蛸石や黄鉄鉱の湯ノ内&第二湯の内 鉱山)があり、黒鉄山山中の登山道で見たザレ石の割れ目には数多く褐鉄鉱の鉱脈が見られることなど、考えると黒鉄山の名は「鉄」に関連して名づけられた山と思っています。
また、赤穂の河口はかつて塩田が広がり、砂鉄浜はなかったと思うのですが、砂鉄浜を見たとのブログを見た記憶があり、千種川の河口も見たくて、8月19日朝早く赤穂に出かけてきました。

赤穂市大津の郷から眺めた兵庫100名山 赤穂市「黒鉄山」　2017.8.19.

兵庫100名山「黒鉄山」からながめた赤穂　2017.8.19.
黒鉄山
黒鉄山登り口
湯の内
大津川
大津
赤穂IC
船渡
新田
大津川
JR赤穂駅
千種川
赤穂城
西浜
赤穂港
赤穂発電所
松ノ鼻
中広
千種川河口
唐船山
赤穂岬
「黒鉄山」＆赤穂千種川河口walk
赤穂市walking Map【1】 2017.8.19.
© 2017 ZENRIN

兵庫100名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口walk

久しぶりに名前に「鉄」のつく山を歩きました　2017.8.19.

1. 兵庫100名山「黒鉄山」に登る
2. 赤穂港・千種川河口walk　　砂鉄浜の痕跡を探して
3. 千種川堤防から赤穂城址

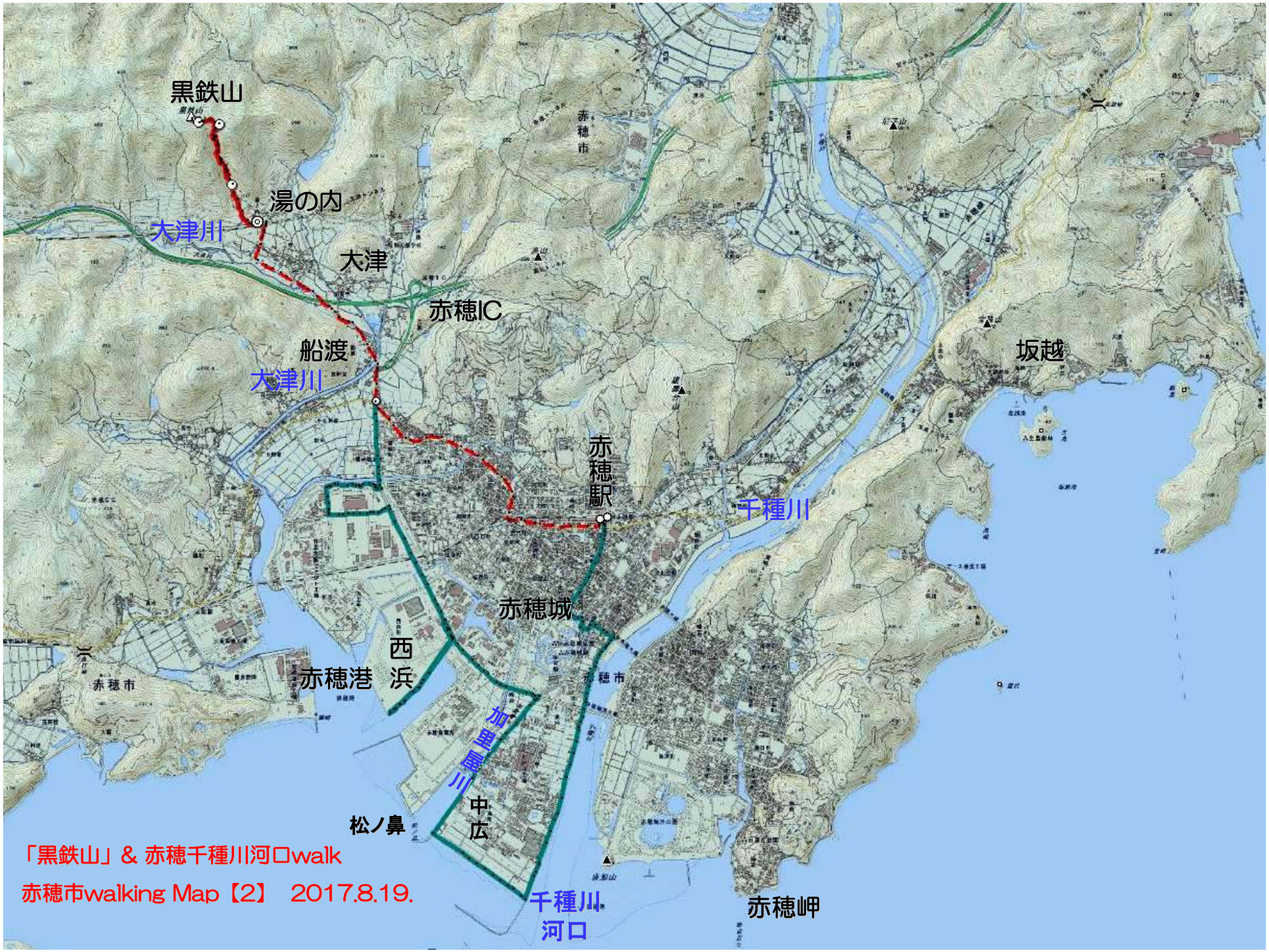
赤穂市西浜　港の工場地帯から黒鉄山を正面に眺める　2017.8.19.
頂上にある反射板が目印　赤穂の市街地 どこからも見える

兵庫北播磨中国山地の古代たたらの郷　千種・佐用から南に流れ下り、瀬戸内海に注ぐ千種川

河口近くの海浜大橋北詰より 千種川上流を眺める　2017.8.19.

JR播州赤穂駅前　2017.8.19.　　新快速電車で11:10到着
暑い夏の一日　お盆も過ぎて、駅前はどちらか言うと静かなもの。
今日は　千種川河口の赤穂で　たたらの痕跡をたずねるwalk。
赤穂の街と瀬戸内の島々が一望できるという「鉄」の名がつく黒鉄山へ登って、上から赤穂の街と千種川河口を眺め、そのあと、赤穂の港から千種川の河口へ歩いて、たたらの痕跡を探す。千種川上流から流したたたらの痕跡などないといわれるのですが、鉄の山　黒鍬山そして　千種川の河口をじっくり歩くのは初めて。興味津々です。
毎度のことながら、行き当たりばったりの山・そして海岸歩きである。
とりあえず駅の観光案内所へ飛び込んで　色々教えてもらう。

黒鉄山
黒鉄山登り口
湯の内
至備前
大津川
大津
赤穂IC
船渡
新田
大津川
千種川
JR赤穂駅
赤穂城
千種川
西浜
赤穂港
赤穂発電所
松ノ鼻
中広
唐船山
千種川河口
赤穂岬
「黒鉄山」& 赤穂千種川河口walk
赤穂市walking Map【1】2017.8.19.
© 2017 ZENRIN
Google


黒鉄山
湯の内
大津川
大津
赤穂IC
船渡
大津川
赤穂駅
千種川
坂越
赤穂城
西浜
赤穂港
赤穂市
赤穂市
加里屋川
中広
松ノ鼻
千種川
河口
赤穂岬
「黒鉄山」＆ 赤穂千種川河口walk
赤穂市walking Map【2】 2017.8.19.

参考　赤穂市　黒鉄山と「鉄」との関連について

黒鉄山の名前の由来についてはよくわからず、
また、黒鉄山の麓から、千種川の河口にかけてのかつての赤穂の沿岸部は塩田として開発されたこともあって砂鉄浜が広がっていたという話は赤穂の街で聞いてもよくわからなかった。

黒鉄山の登山口 「湯の内」という地名は製鉄（たたら）関連地名ではないかという人がいる。
しかし、製鉄関連の遺跡は確認されていない。
　また、大津 湯の内の登山道入口の東北側　黒鉄山の山腹にある湯の内鉱山は褐鉄鉱、黄鉄鉱、第二湯の内鉱山は、黄鉄鉱・蛸石が採掘されている。
このことから　黄鉄鉱の鉱脈が入った石の色などから、鉱石が出る山として黒鉄山の名がついたのかもしれぬ

また、大津の地には黒鉄山から土砂が流れて港が埋まったと伝える災害伝承も残っている。

インターネット検索より

赤穂市西浜　港の工場地帯から黒鉄山を正面に眺める　2017.8.19.

兵庫100名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口walk

久しぶりに名前に「鉄」のつく山を歩きました

西播磨の赤穂の街と瀬戸内海の見晴らし台

1．兵庫100名山 標高430m 「黒鉄山」に登る

赤穂市西浜　港の工場地帯から黒鉄山を正面に眺める　2017.8.19.
頂上にある反射板が目印　赤穂の市街地 どこからも見える

兵庫100名山　黒鉄山標高430m　赤穂の街と海の見晴らし台

湯の内登山口→ 鍋森神社→ 笹谷分岐→ 黒鉄山

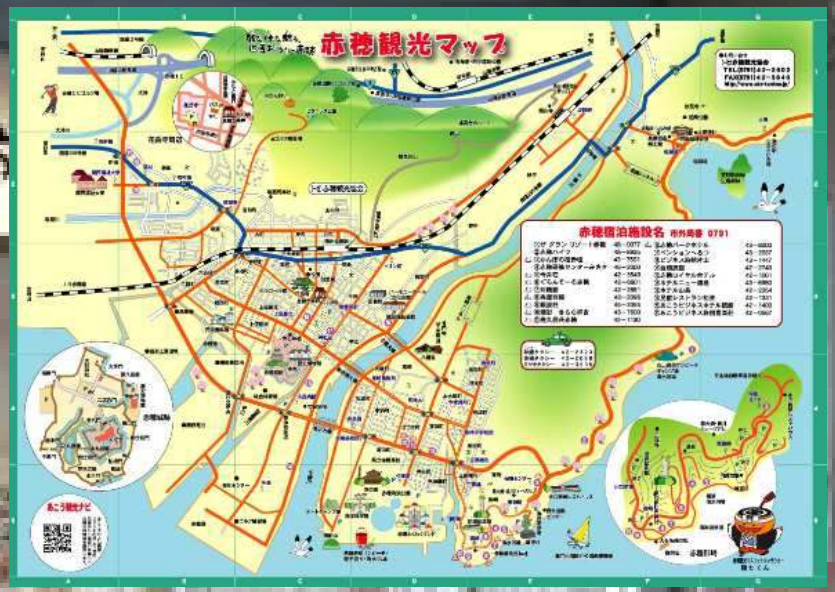
JR赤穂駅前から　相生から岡山県の備前へ赤穂の海岸沿いを走る国道250号を西へ走り、新田から北へ　赤穂市街地の北の山並みに向かう県道96号にはいり、大津川沿いを黒鉄山山麓へ向かう。
大津川の橋を渡ると道は　西へカーブして、山間の大津地域に入り、山陽自動車道をくぐると　右手山並みに沿って山陽新幹線。
その後ろの山並み中央にどっかりと座る黒鉄山が見える。 一つ目の信号の所から北に折れ、黒鉄山の山裾　湯の内集落へ
新幹線の高架の手前からの細い道を西へ高架をくぐったところが、黒鉄山の湯の内登山口だった。TAXIで15分弱でした。

黒鉄山については　全く予備セ知識なく、
インターネットによれば、
国道250号新田から県道96号に入り、
高速を越えてから1つめの信号を右折する。
新幹線高架手前の細い道を道なりに進むと、湯の内登山口。
登山口からは　樹木に包まれた山体の襞の中というか
ガレが埋める浅い谷のジグザク道を登り、
約1時間で頂上部へでられると。

① 笹谷分岐までガレと折れた枝混じりのとても歩きにくい道
　が続きます（崩れよけの柵あり）
② 頂上まで展望が利かないが、頂上部は広い台地になっていて、
　赤穂の市街地・港が手に取るよう。
　その南には瀬戸内海の家島・小豆島が眺められる絶好の展望台

実際に山に入ると　歩くたびに ずるずる崩れる軟弱なガレ場のグザグ道。
道が消えて　でこぼこの斜面　どこでも歩けるのですが、思った以上に歩きにくい。
そんなガレが上まで続いていて、見えてはいるのですが、いろんなところに踏み跡があり、余計に手間取る。
また、山の中の案内には
「赤穂市民のハイキング道に整備された道」とイラスト入りで記されてはいるのですが、とてもとても悪路です。
でも、どこでも登れるので、迷うことはなく、40分ほどで抜けてしまえる。
また、頂上部の台地からは素晴らしい瀬戸内の景色が眺められ、やっぱり　兵庫100名山に選定された価値があると。

今回の発端は　千種川が流れ下る北播磨のたたらの郷
千種や佐用には何度も行くのですが、千種川の河口を
ゆっくり歩いたことがない。
特に遠浅の塩田地帯　西浜地区にはいったことがない。
以前訪れたことがある河口の東側 砂越や海浜公園でも
砂鉄を見た記憶はないし、千種川河口の西浜は千種川が
運んだ土砂でできた遠浅海岸の塩田地帯。
今は工業地帯に変貌している。
でも、この千種川河口の西浜には砂鉄が堆積しているとの
のブロクを見た記憶がある。
ひょっとして　そんな砂州が西浜にあるかもしれないと
千種川の河口に興味津々。



また、そんな過程で赤穂の地図を眺めていて、見つけた
かつての西浜海岸の奥にそびえる黒鉄山素晴らしい展望の山という。
こちらも　ひょっとして・・・である。

案内所で赤穂の海岸で砂鉄が見られる場所が残っていないか?と 聞きましたが、
やっぱり海岸に堆積した砂鉄など誰も知らないという。
また、黒鉄山の登り口大津地区へはバスがあるが、本数が少なく歩くと随分かかると聞き、
タクシーで登り口まで行って、帰りをぶらぶら歩いて、赤穂の西浜海岸へ出ることにして、
地図をもらって　タクシーで出発。

ご幸運にも運転手さんは　何度か登山口まで案内したことあるので、道はわかると聞き、
ラッキー。　砂鉄の話もし、無線でいろいろ聞いてくれたのですが、やっぱり知らぬと。

帰りの町中への道筋を頭に入れながら、駅から約15分弱で　大津地区に入り、
山陽自動車道・新幹線が東西に走り抜ける黒鉄山の南山麓　湯の内登山口でした。

黒森山　湯の内登山口入口　　2017.8.19.

海岸沿いを西へ備前へ向かう国道256号から新田の大きな交差点で別れ、右へ大津地域から山並みの間を備前へ向かう県道96号線に入り、大津川の橋を渡ると道は　西へカーブして、山間の大津地域。山陽自動車道をくぐると右手山並みに沿って山陽新幹線の高架橋が見え、その後ろ中央にどっかりと座る黒鉄山が座っている。この高架橋の所が黒森山の登山口だそうだ。
県道557へ入る標識で北に折れて、黒鉄山の山裾湯の内集落へ向かい　新幹線の高架の手前からの細い道を西へ高架をくぐったところが、黒鉄山の湯の内登山口だった。
TAXIで15分弱でした。

県道557号線　山陽新幹線高架前　ここを右に折れ高架をくぐると登山口　2017.8.19.

県道557は効果をくぐり湯の内団地から黒鉄山の山腹を登り、湯の内谷に沿って黒鉄山の北側へ回り込み、山陽線が走る赤穂市西有年で国道2号線に結ぶ

県道557号線　山陽新幹線高架前　ここを右に折れ高架をくぐると登山口　2017.8.19.

県道557は効果をくぐり湯の内団地から黒鉄山の山腹を登り、湯の内谷に沿って黒鉄山の北側へ回り込み、山陽線が走る赤穂市西有年で国道2号線に結ぶ

細い道なりに高架をくぐり、山陽新幹線金網沿いに少し進むと右に登山口　2017.8.19.

黒鉄山湯の内登山口　金網の扉を開けて奥へ進む　2017.8.19.　11:38

湯の内登山口→ 鍋森神社→ 笹谷分岐→ 黒鉄山
黒鉄山
△430.9
反射板
笹谷分岐
299
150
鍋森神社
100
湯ノ内
県道557号線
湯の内団地
湯ノ内登山口
山陽新幹線

扉を閉めて黒森山の登山道へ入る　2017.8.19.
ほぼ まっすぐ直登の浅い谷筋を頂上部まで登ってゆく

鍋森神社前　このルートの案内板が立っていました　2017.8.19.　11:46

災害に強い森づくり（里山隣接林整備）
～県民緑税の活用～

平成 16 年の台風災害を踏まえて、豊かな「緑」を次の世代に引き継いでいくため、県民共通の財産である「緑」の保全・再生は社会全体で支え、県民が参加・取り組む仕組みとして平成 18 年度から「県民緑税」を導入し、防災面での機能強化を目的とした「災害に強い森づくり」を進めています。

健全な森林は雨水をたくわえたり、土砂流出を防止するなど、様々な機能を持っています。この森では、植えすぎた木を伐採したり、簡易防災施設を設置して、森林の持つ機能を発揮させるための整備を行いました。

除　伐	光や養分の競生によって成長が悪くなった木を伐採するための伐採を行いました。
木柵工	伐採した木を斜面に並べて柵を設置して、土が流れ出したり落石がおきるのを防ぎます。
管理道	森を管理するための道を整備しました。登山道としても利用できます。
カゴ枠工	諏訪神社付近に設置し、斜面の荒廃を防ぎます。
道標・案内板	森を楽しみ、安全に利用するために案内板や道標を設置しました。

兵庫県・赤穂市・(社)兵庫みどり公社

里山防災林整備の案内板　よく整備されて、楽勝と思ったのですが・・・・・・
黒鉄山の山腹を美しい里山に整備する事業で遊歩道・植林整備が行われたと意味を取り違えていました。
歩き出してわかったのですが、頂上部のすぐ下まで、軟弱ですぐ崩れて久米足場の悪いガレ場がつづく谷筋。直登ルートではあるのですが、防災上は危険な場所。　それを克服するため、防災林整備がなされた場所で、道は登山道というより、防災林の管理道路というのが目的でした。
短時間で頂上に到達できるのですが、悪路でした。

赤い鳥居をくぐって　森の中へ　　2017.8.19.
石ころだらけの参道が奥の鍋森神社の祠まで続いている

谷筋を登ってゆくと奥に鍋森神社の祠が見える　2017.8.19.
この辺りは谷筋のごく普通の山道です

黒鉄山　鍋森神社参道　奥に小さな祠が見える　2017.8.19.

誰もいない静かな森の中　夏の日差しが遮られて心地よい

鍋森神社の祠から上はゴロゴロの踏み跡　雑木の間をジグザクに登ってゆく。
そんな踏み跡がいくつもあって、メインの道が所々で切れている。ずるずる滑って歩きにくい。
谷の中　見通しがきくので心配はないのですが、歩きずらく、早く抜けたいなぁ・・・・と。

11:50

管理道を見つけて、トラバースするが　また跡切れる。結局　かつて整備された道がずれ落ちて
ガレ場になってつながっていないのだとわかる。
でも　この谷筋から離れぬよう　ロープや柵　ずれ落ち防止策が施されている場所もあり、
それらを見つけながら、黒鉄山の南斜面の山体のガレ場をジグザクによじ登ってゆく。
11:51

11:53

黒鉄山のザレ石に数多く赤黒い鉄系鉱物(褐鉄鉱?)が入っている

足元の石を眺めると鉄鉱脈と思われる赤黒い筋やそして割れた表面の上に赤黒い面がみえる。この赤黒い鉱物は鉄系鉱物だろう。 この山の石に見える鉄系鉱物の存在が黒鉄山の名前の由来かもしれぬ。

黒鉄山のザレ石に数多く赤黒い鉄系鉱物(褐鉄鉱?)が入っている

足元の石を眺めると鉄鉱脈と思われる赤黒い筋やそして割れた表面の上に赤黒い面がみえる。この赤黒い鉱物は鉄系鉱物だろう。 この山の石に見える鉄系鉱物の存在が黒鉄山の名前の由来かもしれない。

11:53

ガレ場の悪路　道標からはまっすぐ上へ階段が整備されている。
もうガレ場も抜けるだろう。　ほっと一息
12:04

12:14

ガレの谷の中をやっと通過して、
傾斜が緩い山道に　山頂は近い

急に視界が開け、山頂部にある反射板が見える。
山頂へはまだもう少しある　12:32

樹木の間から海がみえ、小豆島が浮かんでいる　2017.8.19.

林の中で視界は開けないが。黒鉄山稜線(笹谷への分岐)に出た　2017.8.19.　12:40

前方奥に笹谷の標識が見え、黒鉄山稜線から北へ笹谷へ下る道の分岐点　稜線を右へ登れば頂上

黒鉄山稜線　林の中を西へ少し行くと反射板の横へ出た　2017.8.19.
赤穂の市街地どこからも見える黒鉄山のシンボルの頂上反射板だ　12:48

反射板の横を抜けると遮るもののない広い頂上台地へ出た(南側)

標高430m 黒鉄山 到着　　2017.8.19.　12:50

正面に見える台の上に登ると南瀬戸内側の景色が一望

頂上台地の東端に反射板が見え、中央には赤穂の街の奥　瀬戸内海に家島群島・　小豆島。
直下に目を向けると　登山口へ先程入ってきた備前へ抜けてゆく県道56号の山間沿い。
狭い大津川の谷間を山陽自動車道と新幹線が交差して走り抜けてゆくのが見える。

黒鉄山から南側の展望　左 赤穂の街の後ろに家島群島　右に小豆島が浮かんでいる

黒鉄山から眺めた赤穂　　左手に千種川　右手に赤穂の港が見える

東西に延びる広い台地の北側には　岡山・兵庫県境の山々が見得ている

標高430m 黒鉄山 到着　記録箱前　　2017.8.19.　12:50

これが三角点か?

↓

黒鉄山山頂　登山記録箱の近くに2等三角点があるのですが、 今回見落としました　2017.8.19.

千種川河口に広がる赤穂の市街地　2017.8.19.　黒森山より

- 写真中央左から右へ流れ下る千種川の河口が見えて、河口東岸の兵庫一の低山　唐船山が見える
- 写真右端にはまっすぐ赤穂の港へ向かう県道96号が見え　県道の左手に赤穂の中心部が広がっている
- 写真には見えていないがこの写真の右にかつての西浜沿岸　赤穂の港がある

黒森山の頂上から千種川西岸沿岸に砂浜があるか　目を凝らす

千種川河口にひろがる赤穂の市街地

加里屋の関電発電所の地先に砂州が見える

千種川河口西岸　かつての西浜塩田地帯に広がる赤穂港の工場群

千種川河口に広がる赤穂の市街地　2017.8.19.　黒森山より

千種川河口東岸には赤穂海浜公園があり、浜があるが人工浜？　また以前調べた時も浜に砂鉄はなかった

黒森山の頂上から千種川西岸沿岸に砂浜があるか　目を凝らす【

千種川河口西沿岸　かつての西浜塩田地帯に広がる赤穂港　全景　2017.8.19.

かつて塩田が広がった西浜沿岸は工業地帯となって、護岸が整備され、
砂浜は見られず。　わずかに関電発電所の先に小さな砂州が見られるのみ。

黒森山の頂上から千種川西岸沿岸に砂浜があるか　目を凝らす【2】

千種川河口西岸　かつての西浜塩田地帯に広がる赤穂港の工場群

かつて塩田が広がった西浜沿岸は工業地帯となって、護岸が整備され、砂浜は見られず。　　わずかに関電発電所の先に小さな砂州が見られる

黒森山の頂上から千種川西岸沿岸に砂浜があるか　目を凝らす【3】

千種川河口にひろがる赤穂の市街地

加里屋の関電発電所の地先に砂州が見える

千種川河口西岸　かつての西浜塩田地帯に広がる赤穂港の工場群

黒森山の頂上から千種川西岸沿岸に砂浜があるか　目を凝らす【4】

赤穂の街の向こうに家島群島がくっきりみえました　　2017.8.19.
淡路や須磨川から見えぬ西島全体の姿が見えてラッキーです

南西側　小豆島も少しかすんでいましたが、間近にながめられました　2017.8.19.

黒鉄山から北側の展望　2017.8.19.　　山また山　幾重にも山並みが続いていました。
山の名前はよく知りませんが、一番奥に見える山並みは中国山地　岡山/兵庫県境の山々。
左奥の山は岡山県の那岐山　そして　右手奥は　千種川の流れ出す奥播磨・千種の山並みでしょうか・・・

赤穂の沿岸部をしっかり頭に入れ、次は赤穂の港から千種川の河口へ行く　2017.8.19.
時間的余裕がないので　いやな道ですが、まっすぐもと来た道を下山する　13:18.

13:47　ガレ道を下って　約30分　鍋森神社の入口に戻ってきました

登りは鍋森神社の森の中の旧道をずっと歩いていたのではないかと、
帰りは周囲を見ながら注意して下ったのですが、結局帰りも歩きにくいガレ場道。遊歩道はなく、整備された道はもう10年たって、随分崩れていると・・・・・。

でも約1時間で頂上に立ち、赤穂の市街地を中心とした瀬戸内の展望は素晴らしく、兵庫100名山の山だと。
また、私には　久しぶりの「鉄」の名前がつく山。
千種川・大津川が流した土砂が今の赤穂の街の原型を作ったことも実感できました。
面白い山でした。　ないと思いますが、次は千種川河口の砂鉄探しへ

県道96号へ出るT字路　大津西口バス停前　　2017.8.19.

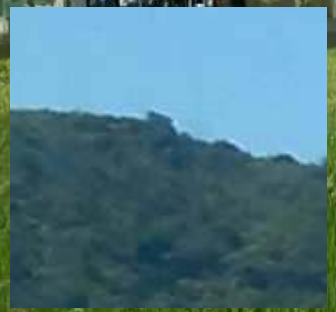
夏の日差しがテルつける中、湯の内から県道96号線のT字路に戻ると都合のいいことに15分ほど待てば、赤穂の街へ出る14:30のバスがある。　黒森山の頂上から眺めたまっすぐ港へ出る県道96号と国道250号との交差点　新田までバスで行くことに。

県道96号へ出て　兵庫100名山「黒鉄山　」　の姿をカメラに　2017.8.19.

黒森山の頂上部にあるシンボルの反射板はこの麓からは見られませんでした。

JR赤穂駅行のバスに飛び乗って、
この県道と国道が交わる新田
居村のバス停まで乗車。
ここで下車して港へ歩くことに。

バスの窓からは黒森山頂上部に
ある反射板が見えていました。



2. 赤穂港・千種川河口walk
砂鉄浜の痕跡を探して　港から千種川河口へ

新田の県道と国道の交差点

国道250へ曲がるバスを降りて、新田からまっすぐ南　赤穂の港　西浜地区に向かって地図を見ながら、県道96号線を赤穂の港へ。14:50

この県道96号は赤穂の市街地の南縁を西から東へカーブし、東の千種川を渡り、相生へ。この道の海側がかつての赤穂西浜の塩田地帯で、現在は赤穂の港を取り囲んで大きな工場が立ち並ぶ工業地帯となっている。

赤穂港・千種川河口西浜地域で砂州があるか確認したいポイントをチェックするのが目的で、黒鉄山から沿岸の状況も頭に入れ、地図を見ながら歩いている。

●赤穂港・千種川西岸西浜の
砂州のチェックポイント

①赤穂港 南端の西浜と発電所突端
② 加里屋川河口の先端 中広埠頭
③千種川河口西岸

新田からまっすぐ南　赤穂の港　西浜地区に向かって県道96号線を歩いて、
第1のチェックポイント「赤穂港 南端の西浜」と「発電所突端」へ向かうため、
ちょつと　道草を食いましたが、今JR赤穂線を渡る高架橋の上にいる。　15:22
振り返ると真正面に黒鉄山が見え、頂上部の反射板も見えている
この高架を越えて 次の運河にかかる高架を渡らず西浜地区東端から運河に沿って南へ
赤穂港東側の突端へ行く。

西浜町の東端の運河を渡る橋の手前で　　黒森山が正面に見えている　2017.8.19.

ここから橋を渡らず、側道にはいり、運河に沿って　対岸の発電所を見ながら皆実へ赤穂港の東南端にゆく。

西浜町の東端　運河に沿って南へ　　運河の出口　赤穂の港へ　2017.8.19.

対岸の関電赤穂発電所が見えているよく整備された護岸
覗き込んでみるが、船が奥へ出入りする運河　砂州はない

西浜町は沿岸に住友大阪セメントの大工場があり、この東端からしか先端部へは行けなかった。
また、当然ながら対岸の赤穂発電所の地先へも発電所を通らねばならず、自由には行けぬ。

西浜町の赤穂港　港は防潮堤でしっかり護岸されていて浜は見られぬ　2017.8.19.　15:38

西浜町の赤穂港　港は防潮堤でしっかり護岸されていて浜は見られぬ　　2017.8.19.

東側運河対岸の関電発電所地先にみられる砂州　　よくわからぬが砂鉄は見られない

千種川河口西岸の沿岸部は赤穂港を中心に工業地帯。東日本大震災の教訓から沿岸部は大津波対策の耐震大防潮堤が張り巡らされている。護岸工事で砂浜も消失し、もうアリの隙間もないぐらい漏れがない。
赤穂の沿岸には関電の新鋭の赤穂発電所があるので、まず一番に防災がなされたのでしょう。
地図や山の上から赤穂沿岸を眺めて、もう砂鉄浜は残っていないとは思いましたが、防災の徹底ぶりはすごい。
防災とはいえ、浜に住みながら海が見えない現象が 日本各地でおこっているのだと
ちょっと気分は複雑。
そんなことを考えながら、はりめぐらされた防潮堤を見上げつつ、もと来た道をひきかえし、
次のポイント②加里屋川河口の先端部に向かって　赤穂港の東端　西浜を後にする　　15:40

元の県道96号線の運河にかかる橋を東へ渡って
②のポイント加里屋川河口の先端 中広埠頭へ　15:56

西沖の信号

県道96号線　関電赤穂発電所正門前

西沖の信号を過ぎ、加里屋川にかかる城南橋を南に折れて、
川に沿って　②のポイント 加里屋川河口 中広埠頭に向かう。 2017.8.19. 16:14
遠く南に 加里屋川河口の水門が見え、加里屋川の右に赤穂発電所の大きな煙突を見ながら河口へ
また、行けぬと思っていた赤穂発電所のある加里屋地区の先端の松ノ鼻側へも 後で 行けると知りました。

加里屋川河口　水門の外

加里屋川河口にある水門

水門を過ぎると　加里屋川に沿った道がまっすぐ河口まで続き、港を担う大きな
埠頭が突端まで整備されていました。　Google earth より

加里屋川河口

加里屋川の先端まで　護岸整備された広い中広埠頭　2017.8.19.

16:32　加里屋川河口　中広埠頭の先端　到着

象の鼻中広突堤から南西側外海

沖の鼻　中広埠頭

象の鼻から東の千種川河口へ
巨大な防波堤がまっすぐ伸びている

加里屋川河口東岸の先端　　google earthより
河口から海へ中広突堤が突出し、東には千種川の西岸まで、強固な防潮堤が伸びている

河口東南角より東へまっすぐ伸びる大防潮堤

河口東南角　外海へ河口から突き出した中広突堤

外海へ河口から突き出した中広突堤　　2017.8.19.

堤防・突堤の下は岩とテトラポットで固められていて　砂浜はないが、
突堤と防潮堤の角の所に小さな砂の堆積がある。しかし、砂鉄は見られなかった

③　東の千種川河口の西岸の先端へ
中広埠頭の先端から堤防を歩いて千種川河口へ

加里屋川河口から千種川河口へまっすぐ伸びる大防潮堤　2017.8.19.　　16:35

大海原に左手には家島群島 西島　右手には小豆島が見えている

この巨大な防潮堤　背丈より随分高く、千種川の河口で乗り越えられるか　ちょっと心配しながら歩きました。　千種川の角の所で　内側の標識から、網がかけられていて、それに足を引っかけ、よじ登りました。

防潮堤は三段の巨大なもので岩で固められ、砂州などは千種川の河口まで全く見えない。

街の人によれば、赤穂の沿岸は埋め立てで、沿岸の出入りがなくなり、外海の流れを遮れないので、砂は堆積しなくなっていると。　港の機能としては深くていいのでしょうが・・・・・

防波堤の海側の下をまっすぐ千種川の河口へ　　2017.8.19.
正面の海には家島群島　小豆島　　穏やかな瀬戸内の海が広がっています

千種川河口の突端から　防潮堤の上から歩いてきた西の赤穂港を眺めた景色　2017.8.19.
赤穂の港沿岸walkの前に登った黒鉄山の山並みが背後に立ち並んでいます

防潮堤の先端がすぐそこ。家島群島の西島が随分大きく見える　千種川の河口にやってきた　16:45

先に見える防潮堤の柱にロープが輪にして足場替わりに括りつけられていたので、そこから堤防の上へ

巨大な防潮堤の下を歩いて千種川河口へ

西島も砂利採取で　こんなに山が崩されている。

家島群島の西島が随分大きく近くに

家島群島をまじかに西側から見る光景です

千種川の河口　堤防突端　16:45

海側から防潮堤上へ登れる階段がないことを心配していましたが、
手前にあった防潮堤の柱にロープが輪にして足場替わりに括りつけられていたので、
海側から堤防の上へよじ登って無事陸地側へ

千種川河口突端から北の千種川西岸にも高い護岸堤防　2017.8.19.
河口周辺には　対岸の海浜公園側には少し砂浜が見えるが、砂州は全くみえない
対岸の海浜公園の砂浜も最近砂を入れたと聞きました。

千種川対岸　赤穂海浜公園

防潮堤突端から家島群島

遠く海上に浮かぶ小豆島

東側の防潮堤

海浜公園から赤穂岬

防潮堤突端

家島群島

防潮堤西側

赤穂港周辺

奥播磨　たたらの山郷　千種から流れ出た千種川　河口　16:47　到着

かつて　たたら製鉄の山崩しで流れ出た土砂が河口に堆積し、赤穂の町や　赤穂の一大産業になった塩田が広がる遠浅の沿岸を形成したといわれる。 そんなたたらの痕跡が無いか訪ねて赤穂沿岸歩きましたが、いまや沿岸は大津波・地震の防災対策の巨大堤防で囲まれて、砂州・砂浜も焼失。 しかし　かつての塩田跡や海岸が埋め立てられ、日本の産業を支えるエネルギー基地・工業地帯に変貌していました。

この赤穂　千種川河口に広がる赤穂の港・工業地帯も　たたら製鉄が残した遺産といえるだろう。

また、赤穂の町の背後にそびえる　兵庫100山「黒鉄山」は　そんなたたらの歴史と赤穂の町の変遷を静かに見てきたといえる。

千種川河口防潮堤突端からの景色【1】

千種川河口から越しに眺める赤穂岬 遠望　2017.8.19.

千種川河口防潮堤突端からの景色【2】

千種川河口から眺める播磨灘に浮かぶ家島群島 遠望　2017.8.19.

千種川河口防潮堤突端からの景色【3】

千種川河口から眺める小豆島遠望　2017.8.19.

千種川河口防潮堤突端からの景色【4】

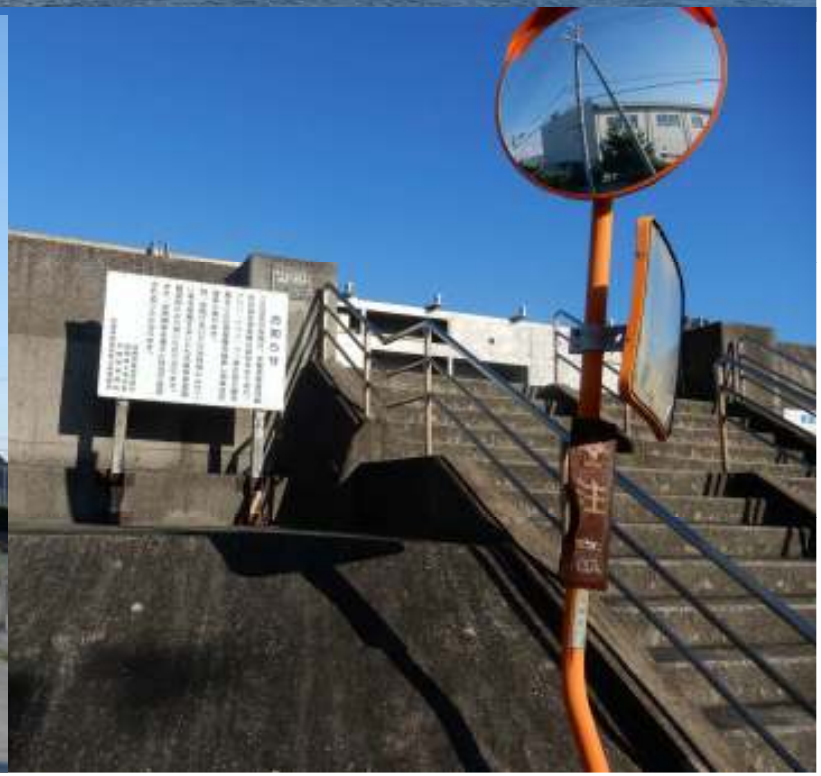
千種川河口堤防の上から歩いてきた赤穂港 松ノ鼻側を遠望　2017.8.19.

千種川河口防潮堤突端からの景色【5】

千種川河口護岸堤防から眺めた千種川上流の景色　2017.8.19.

3.　千種川の護岸堤防を歩いて　赤穂の町へ帰る

夕暮れが迫る中、千種川の西岸堤防を上流側へ
砂州をチェックしながら、ぶらぶら帰る　　16:57



黒鉄山
黒鉄山登り口
①赤穂港
南端西浜
②松ノ鼻・中広
加里屋川河口
③千種川河口
229
250
32
45
© 2017 ZENRIN

千種川の両岸もしっかり護岸整備がなされていて、上流の新赤穂大橋周辺まで、
歩きましたが、河原に砂州などはほとんど見られず。
わずかに河口の海浜公園の唐船山周辺の浜　そして　護岸に沿って狭い中州や砂州が
所々にみられる程度で、街で聞いたとおり、砂鉄の堆積した浜の痕跡を見つけること
はできませんでした。

河口対岸　赤穂海浜公園周辺の海岸　　2017.8.19.夕

海浜公園の西端に突き出た唐船山周辺に小さな砂浜や千種川の護岸に沿って小さな砂州が見られる。
カメラをズームアップして砂州をチェックしましたが、砂鉄堆積の痕跡見られず、街で聞いた通り。
また、赤穂海浜公園の浜には最近は他から砂を入れて　砂浜減退軽減をしていると街で聞きました。

河口周辺の対岸に見える中州　　2017.8.19.夕

県道56号線が走る赤穂海浜大橋周辺には幾つか中州が見られますが、
雑草に覆われ、砂鉄を見ることありませんでした

県道56号線が走る赤穂海浜大橋から上流の新赤穂大橋を眺める　2017.8.19.

17:30　千種川の堤防から左へ降りて、赤穂城を経由して　JR 播州赤穂駅へ戻る

赤穂城址公園で【1】 2017.8.19.夕　 17:45

樹木の間から目印反射板のある黒鉄山が遠く見えています　　2017.8.19.

黒鉄山
黒鉄山登り口
229
250
32
© 2017 ZENRIN

久しぶりに名前に「鉄」のつく山を歩きました

兵庫100名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口walk　2017.8.19.

兵庫北播磨中国山地の古代たたらの郷　千種・佐用から南に流れ下り、瀬戸内海に注ぐ千種川。
その河口に開けた赤穂は砂鉄採取の土砂など千種川の土砂が堆積してできた街として知られる。
その河口に今も砂鉄浜があるかもしれないと思いつつ、地図を広げていて、赤穂の街の西北部に「黒鉄山」の名を見つけました。また、この山のすぐ南の地域の名は大津そして船渡の地名もあり、かつてはこの辺りは赤穂の海岸線が入り込んでいたと推定され、その東南には赤穂の街・港を作った千種川の河口である。
また、黒鉄山山腹には鉱山(蛸石や黄鉄鉱の湯ノ内&第二湯の内 鉱山)があり、黒鉄山山中の登山道で見たザレ石の割れ目には数多く褐鉄鉱の鉱脈が見られることなどを考えると黒鉄山の名は「鉄」に関連して名づけられた山と思っています。
また、赤穂の河口はかつて塩田が広がり、砂鉄浜はなかったと思うのですが、砂鉄浜を見たとのブログを見た記憶があり、千種川の河口も見たくて、8月19日朝早く赤穂に出かけてきました。

赤穂市大津の郷から眺めた兵庫100名山 赤穂市「黒鉄山」　2017.8.19.

千種川対岸　赤穂海浜公園

防潮堤突端から家島群島

遠く海上に浮かぶ小豆島

東側の防潮堤

海浜公園から赤穂岬

防潮堤突端

家島群島

防潮堤西側

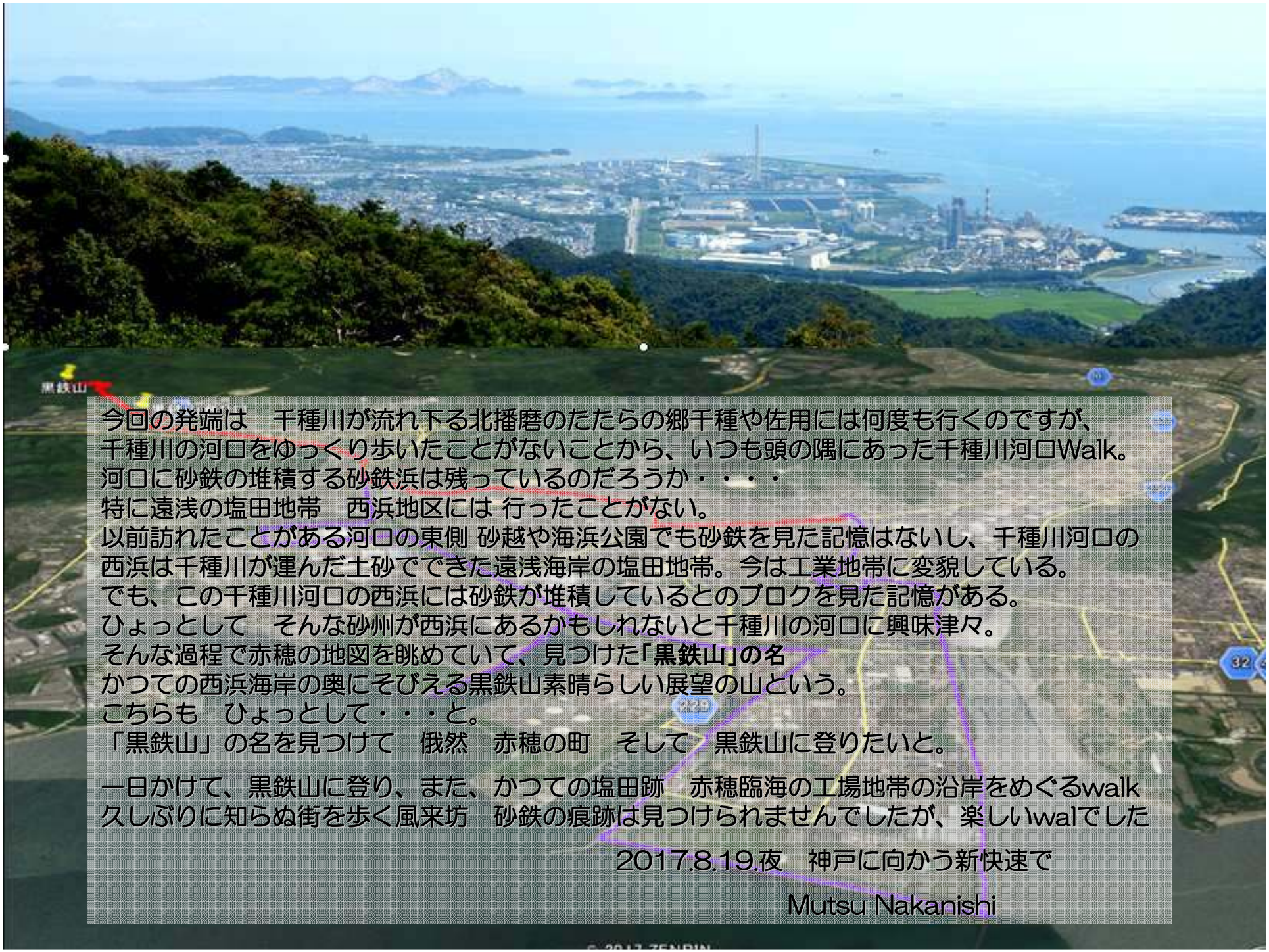
赤穂港周辺

奥播磨　たたらの山郷　千種から流れ出た千種川　河口kの赤穂沿岸walk

かつて　たたら製鉄の山崩しで流れ出た土砂が河口に堆積し、赤穂の町や　赤穂の一大産業になった塩田が広がる遠浅の沿岸を形成したといわれる。 そんなたたらの痕跡が無いか訪ねて赤穂沿岸歩きましたが、いまや沿岸は大津波・地震の防災対策の巨大堤防で囲まれて、砂州・砂浜も焼失。 しかし　かつての塩田跡や海岸が埋め立てられ、日本の産業を支えるエネルギー基地・工業地帯に変貌していました。

この赤穂　千種川河口に広がる赤穂の港・工業地帯も　たたら製鉄が残した遺産といえるだろう。

また、赤穂の町の背後にそびえる　兵庫100山「黒鉄山」はそんなたたらの歴史と赤穂の町の変遷を静かに見てきたといえる。



今回の発端は　千種川が流れ下る北播磨のたたらの郷千種や佐用には何度も行くのですが、
千種川の河口をゆっくり歩いたことがないことから、いつも頭の隅にあった千種川河口Walk。
河口に砂鉄の堆積する砂鉄浜は残っているのだろうか・・・・
特に遠浅の塩田地帯　西浜地区には 行ったことがない。
以前訪れたことがある河口の東側 砂越や海浜公園でも砂鉄を見た記憶はないし、千種川河口の
西浜は千種川が運んだ土砂でできた遠浅海岸の塩田地帯。今は工業地帯に変貌している。
でも、この千種川河口の西浜には砂鉄が堆積しているとのブロクを見た記憶がある。
ひょっとして　そんな砂州が西浜にあるかもしれないと千種川の河口に興味津々。
そんな過程で赤穂の地図を眺めていて、見つけた**「黒鉄山」の名**
かつての西浜海岸の奥にそびえる黒鉄山素晴らしい展望の山という。
こちらも　ひょっとして・・・と。
「黒鉄山」の名を見つけて　俄然　赤穂の町　そして　黒鉄山に登りたいと。

一日かけて、黒鉄山に登り、また、かつての塩田跡　赤穂臨海の工場地帯の沿岸をめぐるwalk
久しぶりに知らぬ街を歩く風来坊　砂鉄の痕跡は見つけられませんでしたが、楽しいwalでした

2017.8.19.夜　神戸に向かう新快速で

Mutsu Nakanishi

【参考1 】　兵庫県立人と自然の博物館　先山徹氏講演「赤穂に塩田を作り出した播磨北部のたたら製鉄」より

【たたら製鉄が地域の自然や文化に与えた影響　鉄穴流しがもたらしたもの】

www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/ir3kc04.pdf　P3整理

鉄穴流しは、周囲の山を削り、地形を大規模に変えてしまいました。そのような地形は、千種町周辺に今も残されています。そして、鉄穴流しによって流された残りの土砂は千種川を下り、河口付近に堆積しました。中世になって赤穂で干潟が発達し、塩田がつくられた要因のひとつに、千種川上流のこのような「鉄穴流し」があったと考えられています。

千種川河口の海岸線変化（赤穂市史）

千種川河口の干潟は中世になって急激に広がり、これによって、赤穂に入浜式の大規模な塩田がつくられました。

千種のたたらと赤穂の塩田の歴史

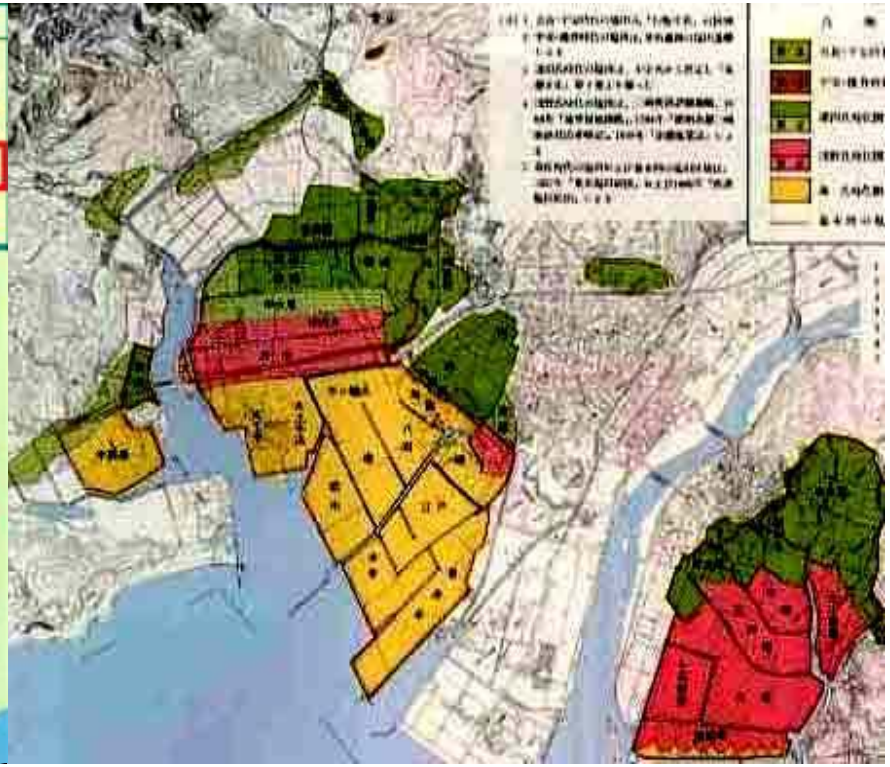
	製鉄技術と千種のたたら	製塩法と赤穂の塩田
弥生時代	稲作・鉄器の使用	
古墳時代	鉄器製作	
奈良時代	播磨風土記に記述	藻塩法
平安時代	千種町・高保木製鉄遺跡	
鎌倉時代	野だたら	
室町時代	鉄穴流し・永代たたら開始（1500~1600年）	揚浜式
江戸時代	天秤ふいご　里内でのたたら	赤穂に入浜式塩田（1674~1943） 赤穂浪士討入り（1701）
明治時代	西洋製鉄技術導入 たたらの衰退	入浜式
大正時代	鉄滓を使用	流下式
昭和時代	鉄滓を広畑製鉄所に出す（1944~1945）	最後の塩田（1971）

室町時代後半、製鉄法は小規模な「野だたら」から、定住して大規模な鉄穴流しをおこなう、「永代たたら」へと変化していきました。一方、その頃になると赤穂の製塩法は、揚浜式から大規模な入浜式へと変化していきます。

この対応関係から、千種川上流でおこなわれた鉄穴流しによって、下流の赤穂で干潟が広がり、大規模な入浜式の塩田が作られるようになったと考えられます。

【参考2 】 赤穂の塩田開発の歴史地図(『赤穂市史第二巻』所収)より整理

https://ameblo.jp/idryou/entry-11839752778.html　&　http://chushingura.biz/gisinews01/news026.htm



赤（浅野時代）、
黄（森時代）、
他（それ以前）

鎌倉時代までは小規模な塩田しかないのに 池田氏時代に大規模開発が行われています。
浅野氏時代にも大規模開発されています。
ピンク色が浅野氏時代開発の塩田。
赤穂城と比べるとその大きさが分かります。

再度 千種川河口を訪ねて、浜に堆積する砂鉄を見つけました
2017.9.10.

前回の砂鉄の痕跡を探す千種川河口walkで
行けなかった千種川河口東端　唐船山の下の砂州。気になっていたのですが、
塩田が見たいという孫娘に便乗、これ幸いと赤穂千種川河口東岸の海浜公園
の塩田再現施設「塩の国」へ行きがてら、千種川河口東端　唐船山の下にある
小さな砂浜の確認に再度出かけました。

防潮堤からは一見何もないように見えましたが、
浜に降りると波打ち際に沿って、砂鉄が堆積しているのを見つけました

Mutsu Nakanishi

追補　2017.9.10.千種川河口の小砂浜に砂鉄を見つけました

千種川河口東端から東の唐船山下への小砂浜で　少しですが砂鉄が堆積

前回の砂鉄の痕跡を探す千種川河口walkで行けなかった千種川河口東端　唐船山の下の砂州。
気になっていたのですが、塩田が見たいという孫娘に便乗、これ幸いと赤穂千種川河口東岸の海浜公園の塩田再現施設「塩の国」へ行きがてら、千種川河口東端　唐船山の下にある小さな砂浜の確認に再度出かけました。
防潮堤からは一見何もないように見えましたが、浜に降りると
波打ち際に沿って、砂鉄が堆積しているのを見つけました。

少しですが砂鉄が堆積する千種川河口東の唐船山下への小さな砂浜

新田
県道60号
西浜
赤穂市
千鳥町
千種川河口
唐船山
赤穂海浜公園・
東浜 塩の国
❹千種川河口東岸端 唐船山下
1
2
3
●赤穂港・千種川西岸西浜の
砂州のチェックポイント
①赤穂港 南端の西浜と発電所突端
② 加里屋川河口の先端 中広埠頭
③千種川河口西岸

浜の波打ち際に沿って　少しですが 砂鉄が堆積する千種川河口東の唐船山下への小さな砂浜

人工的に砂が入れられ作られた小砂浜ですが、
河口の波打ち際　千種川河口に運ばれてきた砂鉄が、
海底に溜まり、荒波が起こった時に、底から巻き上げられ、
荒波と一緒に　波打ち際に運ばれたもののようだ。
外海に突き出た西浜に対し、東側を海に突き出た荒船山と
西浜護岸で外海と隔てられ、
わずかですが、砂鉄の堆積環境が作られたものと推定される

千種川河口東岸　唐船山下の砂浜で採取した砂鉄　　2017.9.10.
磁石に吸い寄せられ、また、粒の丸みもある

唐船山　　千種川河口西端　　千種川河口東端

千種川河口東端から東唐船山の下へ延びる小さな人口浜？　2017.9.10.

千種川河口東端　唐船山の下の浜から眺める河口　2017.9.10.

砂鉄の堆積を見つけた千種川河口東端から東の唐船山の下へ延びる小さな人口浜？　2017.9.10.

もう　千種川河口には上流から運ばれた砂鉄が堆積する浜はないと思いましたが、千種川東岸が外海に突き出た唐船山の下の小さな人工の砂浜?には　打ち寄せる荒波で海底から巻き上げられた砂鉄が堆積しているのを見つけました。

また、唐船山は兵庫県一の低山として知られていますが、難破した船に土砂が覆いかぶさり、形成されたとの伝承もあり、かつて千種川が上流のたたら製鉄の砂鉄採取の鉄穴流し等で生じた大量の土砂を河口に運んでいたことの伝承かもしれません。

気にかかっていた千種川河口の砂鉄　やっと疑問がクリヤーになりました。

2017.9.10.　by　Mutsu Nakanishi

かつての東浜塩田跡に復元された塩田施設　赤穂海浜公園内　塩の国

かつての東浜塩田跡に復元された塩田施設　赤穂海浜公園内　塩の国

塩田作ったかん水を煮詰めて塩を作る釜屋の内部

赤穂海洋博物館　赤穂塩田による塩づくり　展示Videoより

上流から運んだ土砂が河口を遠浅な沿岸をつくり、塩田をはぐくんだ
たたらの郷　奥播磨を流れ下る千種川
兵庫北播磨中国山地の古代たたらの郷　千種・佐用から南に流れ下り、瀬戸内海に注ぐ千種川
河口近くの海浜大橋北詰より 千種川上流を眺める　2017.8.19.

参考　和鉄の道･Iron Road　by Mutsu Nakanishi

1. 和鉄の道【3】口絵　2003　4.たたら製鉄が地 域 の自然や文化に与えた影響
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/ir3kc04.pdf
2. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる」2013.7.19.
   千種天児屋たたら跡･岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron10.pdf
3. 古代秦氏の播磨進出地　港町「坂越」walk　赤穂市坂越
   西播磨名産「牡蠣」& 古い港の町並みが残る坂越
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/walk7/1004wharima03.htm

兵庫100名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口walk

久しぶりに名前に「鉄」のつく山を歩きました　2017.8.19.

1. 兵庫100名山「黒鉄山」に登る
2. 赤穂港・千種川河口walk　　砂鉄浜の痕跡を探して
3. 千種川堤防から赤穂城址

By Mutsu Nakanishi

赤穂市西浜　港の工場地帯から黒鉄山を正面に眺める　2017.8.19.
頂上にある反射板が目印　赤穂の市街地 どこからも見える